空調タイムス
THE AIR－CONDITIONING TIMES
購読料一カ年18,000円　発行日毎週水曜日
4 13 水
2011年〈平成23年〉
週刊
第2395号

省エネとIAQ向上に
ニーズ高まるメンテナンス市場

東日本大震災から1カ月あまりが経過した。被災地ではがれきの撤去作業が行われ、空港・鉄道などは再開に向けた動きを進めているが、被害の全貌は未だ把握しきれず、今もなお約15万人が避難所生活を送っている。福島原発事故や続く余震、物流の停滞や原料・燃料不足など国内経済に及ぼす影響を踏まえ、政府は月例経済報告で景気の基調判断を6ヶ月ぶりに下方修正した。

震災以降、東北・東京電力管内では電力不足に対する緊急措置として計画停電を実施。これまでのところ需要家の節電への取組もあり大規模停電を回避してきたが、今月8日官邸で開催された電力需給緊急対策本部で経済産業省が提出した資料によると、今夏の最大ピーク時に1千万キロワット程度、昨年並みのピーク（約6千万キロワット）を想定した場合には1千500万キロワット程度の供給力不足の恐れがあるという。

2010年のパッケージエアコン出荷台数（暦年）は前年比13・4%増の69万台。今年に入っても1月は同22・8%増、2月も同27・2%増と好調に推移。その半数以上が更新需要と見られる。しかし現在、震災がメーカーサイドの供給体制にも影響を及ぼしている状況で、その足取りはストップせざるを得ない。さらに、更新時期に達している物件も、計画を一時凍結し、メンテナンスで設備の延命化を図ろうとする動きも見られる。

メンテナンスはこれまで、室内空気質（IAQ）の維持・向上を目的に実施されてきたが、省エネのメリットでも関心が高まっている。3月15日、経産省が産業界に対して省エネルギーの取組を文書で要請した「省エネルギーに向けた協力依頼」の中には対策の一つとして「エアコンのフィルタの清掃」が明記されている。冷却水系の水質維持に欠かせない水処理も含めた空調設備のメンテナンスは、今、その重要性が再評価される時期を迎えている。

View　空調・冷熱機器の機能を保全するメンテナンス業務は、機器・設備のロングライフ手法として定着している。経年使用によって不可避である機能劣化の予防保全は、コストパフォーマンスに優れた省エネ対策としても評価される。今夏にも懸念される電力供給不足を乗り切る有効な手法ともなる。写真は食品工場、冷蔵倉庫に設置された低温用エアコンの洗浄＝NPO法人エアコンクリーニング協会提供